



作家・ドイツ在住 川口マーン恵美

### ウサギは卵をどこに隠した？

今年のイースター（復活祭）の日曜日は4月20日。イエスの復活を祝うお祭り、翌月曜日も祝日。また、その2日前の金曜日はイエスが十字架に架けられたことを悼む日で、これも祝日。つまり、現代のイースターは多くの人々にとって、金曜日から月曜日までの嬉しい4連休だ。

ちなみに、ドイツでは13日の金曜日が不吉とされているので、イエスの磔刑<sup>たっけい</sup>が13日の金曜日だったのかと思っていたが、いろいろな説があるらしく、よく分からない。しかも、13日の金曜日が不吉だというのは、キリスト教圏全体の迷信ではなく、英語圏と、ドイツ、フランスに限った話だそう。ドイツでは今も病院に13号室はなく、電車で13号車が付いていないのは、ちょっと笑える。

イースターは日本ではあまりポピュラーではないが、ドイツではクリスマスと並ぶ大きな祝祭だ。寒い国の人々は春の訪れをとりわけ喜ぶが、イースターはまさしくその時期にあたり、



ウサギだらけのイースター関連商品のディスプレイ

暗く長い冬が終わり、これからだんだん暖かくなるという期待が皆の胸の中で膨らんでいる。

クリスマスのように神妙な雰囲気はないし、暗い部屋で幻想的にキャンドルがともるわけでもないが、庭には一斉に花が咲き始め、大人も子どもも明るい日の光を浴びて、皆、ご機嫌。お祭りはやはり、寒い時より暖かい時の方が陽気で良い。

そういえば昔は、2月の謝肉祭（カーニバル）の後、40日余りの断食（肉食やお酒を避ける）や禁欲の習慣があり、それが明けるのがイースターの土曜日だった。今でもこの時期にはアルコール断ちや肉断ち、ついでにちゃっかりダイエットなどをしている人たちは結構いる。

そういう“現代の断食”をしている人も、していない人も、イースターの日曜日には全て解禁。家族で集まって「ハッピー・イースター！」ごちそうの種類は色々だが、一応、典型的なお料理は子羊とされる。

実は、イースターの主役はウサギと卵だ。日曜の早朝は、大きなカゴを背負ったウサギが、あちこちを忙しげに駆け回っているらしい。カゴの中には色とりどりのきれいな卵が入っていて、それを子どもたちのいる家の庭に隠していく。だから、子どもたちは目を覚ますと、朝食も上の空で外に出て、ウサギの隠していった卵を探す。庭のない家や、雨の日なら、卵は家の中で見つかるし、たいていは卵以外のプレゼントもザクザクと出てくる。1年に一度のこの朝、ウサギの存在を信じている小さな子どもたちの興奮ぶりを見るほど楽しいことはない。あちこ